

平成 28 年 9 月 26 日

2016 クリーン・コール・デー石炭利用国際会議が開催されました

Pathway for Coal towards High Efficiency & Low Emission (HELE) Technology under the World's Coal Value (環境に配慮した石炭バリュー・チェーンの高度化へ)

一般財団法人 石炭エネルギーセンター (JCOAL) は、9 月 7 日から 8 日の 2 日間にわたり、経済産業省、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC)、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、宇部市、在京 30 カ国大使館等、6 州政府 (2 カ国)、Global CCS Institute の後援を得て、ANA インターコンチネンタルホテル東京において第 25 回目となる「2016 クリーン・コール・デー石炭利用国際会議」を開催した。

会議では、松村経済産業副大臣の参加・挨拶、米国、豪州、ベトナム、中国、インド、台湾、インドネシア、ポーランドといった主要石炭産消地の各国 (地域) 及び関係機関・企業等、国際連合欧州経済委員会持続エネルギー小委員会 (UNECE) や国際エネルギー機関 (IEA) 及び世界石炭協会 (WCA) 並びに Global CCS Institute などの国際機関、日本の経済産業省資源エネルギー庁、JOGMEC 等の政府及び関係機関等、石炭に係わる各方面からの講演があり、国内外の産官学から両日を通じて延べ 700 人余りの参加者を得て活発な議論が行われた。会議での議論を踏まえ、JCOAL として下記声明を発信する。

JCOAL's STATEMENT

- ・ 石炭は供給安定性と経済性に優れる資源であり、エネルギー資源としての役割は大きく、石炭安定供給確保へ向けた継続的取組は不可欠である。一方、石炭利用に際しては環境への配慮が不可欠であり、特に COP21 では、世界共通の長期目標として 2°C 目標の設定が合意されるなど、CO₂ の削減が世界の大きな課題となっている。
- ・ 我が国の石炭火力発電については、引き続きベースロード電源としての役割を担うものであり、最新の高効率化技術導入による老朽石炭火力発電所リプレース等を着実に進めるとともに、更なる CO₂ 削減の努力を行っていくことが必要である。
- ・ 石炭の利用増加が避けられない新興国では、SO_x、NO_x、ばいじんなどの大気汚染物質や水質汚濁物質を取り除く環境設備を普及していくことが喫緊の課題である。また、高効率発電技術の発展途上国等への展開については、地球全体の CO₂ を削減させるという現実的な地球温暖化抑制策として推進すべきである。
- ・ CO₂ の抜本的削減策として、革新的高効率化技術である IGCC・IGFC や A-USC などの開発及び導入による発電量当たりの CO₂ 排出量低減、大幅なコスト削減を実現する CO₂ の分離・回収、CCS の実用化へ向けた取組及びプランテーションを含めたバイオマス混焼を推進することが必要である。また、CO₂ の農水産業や化学原料の資源としての利用や新たな高付加価値品の開発にも積極的に取り組むことが重要である。
- ・ さらに、二国間・多国間の重層的なクリーンコールテクノロジーによる新しい産業創出も視野にいれ、国際共同事業を実施するためのファンド創設等の仕組み作りを行うことも重要である。また、石炭を水素化して輸送する具体的なプロジェクトを推進するなど、石炭エネルギーのパラダイムシフトにもつながる将来の水素社会の実現に貢献すべきである。
- ・ 以上は、地球人類全体の持続可能な成長へとつなげるための環境に配慮した石炭バリュー・チェーンの高度化に向けての石炭関係諸国共通の認識である。

(本発表資料のお問い合わせ先)

情報ビジネス戦略部長 榊山

担当者：藤田、本多

電 話：03-6402-6106